



鳥羽運送 和歌山県では初

特定技能 外国人 ドライバーを採用

鳥羽運送(鳥羽市)は和歌山県で初めて特定技能外国人のトラックドライバーを採用。10月に本社で入社式を行った。入社したのはインドネシア人のイフトゥ・スクマ・マハディタさんとマナン・ジャル・フディアントさんの2人で、鳥羽社長から直接、辞令が手渡された。

ジャルさんは、今回応募した理由を「トラックに乗ってみたい」として、うえて、「将来、インドネシアに帰国したときに、日本の運送業界で学んだことを伝えたい」との思いを明かす。

スクマさんはもと、自動車部車場もと制作作業で働いてきたが、現場では、運送の仕事をする年間経験トラックにも乗る業務もあったという。免許を取得。自動車も好きで、通勤でも取得し、日本の交通ルールも理解。「大乗用車を毎日運転しているため、日本の交通ルールも十分に理解している。」と語った。

鳥羽社長は「2030年には約3割強の人手が不足し、輸送の低下が懸念されている」とし、彼ら2人は日本のドライバーと同じようなクオリティの人材。人手不足の不安を解消してくれる存在」と語った。

GLORY OF BRIDGE 人材確保と橋渡し

鳥羽運送(鳥羽市)は和歌山県で初めて特定技能外国人のトラックドライバーを採用。10月に本社で入社式を行った。入社したのはインドネシア人のイフトゥ・スクマ・マハディタさんとマナン・ジャル・フディアントさんの2人で、鳥羽社長から直接、辞令が手渡された。

今回の採用は、GLORY OF BRIDGEは、2人と同じインフラも運転も好き。今後は長距離輸送にも取り組んでいきたい」と意気込みを語った。ジャルさんは5年、紹介業務だけでなく、整えている。(佐藤弘行)



(左から)鳥羽社長、ジャルさん、スクマさん、出村社長、インドネシア人スタッフの2人

見解分かれるGマーク

認証取得は必要?

特定技能外国人の雇い入れやIT点呼を行うにはGマーク(安全性優良事業所)の認証が必要だが、この認証取得を「無意味」と考える中小・零細の運送会社も多い。

大阪府堺市で日用品を輸送する運送会社は「Gマークを取得するにはさまざまな費用がかかり、さらに更新時にも経費がかかる。認証を取得しても荷物が減るわけではないので、関心はほとんどない」と話す。

一方、Gマ



また、IT点呼の導入で、運送業者の負担が軽減された。いずれはIT点呼や自動点呼などが主流になると、Gマークを取得しておくことが非常に便利と分析する。(佐藤弘行)